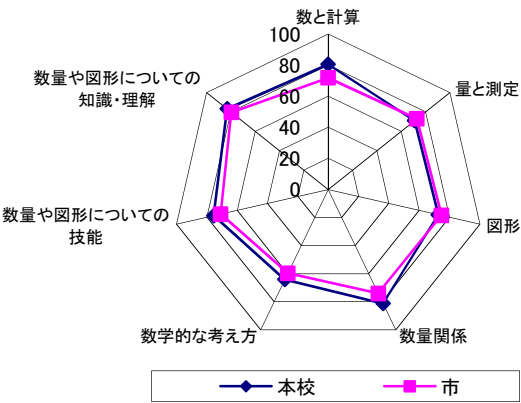


宇都宮市立海道小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	80.4	71.8
	量と測定	71.0	72.8
	図形	72.6	74.7
	数量関係	81.3	74.1
観点別	数学的な考え方	64.2	59.7
	数量や図形についての技能	75.5	70.9
	数量や図形についての知識・理解	83.1	79.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・ 平均正答率は、市の平均より8. 6%と高い。計算の問題に対しては、90%以上の正答率であり、余りなしのわり算の計算については100%の正答率となっており、しっかり定着していることが分かる。しかし、 400×7 の計算の仕方を説明する問題や余りのあるわり算の割る数と余りの関係を説明する問題についての正答率が低くなっている。	引き続き、繰り返し計算ストレッチ的な学習を継続して行い、計算力を高める。 また、計算のしかたを考える学習を丁寧に扱うことで、計算の仕組みについての理解を深める。 さらに、生活場면을捉えた文章問題から必要な数字を取り出して計算するなど、学んだことを活用する力も育てていきたい。
量と測定	・ 平均正答率は、市の平均より1. 8%低い。特に、時刻と時間の問題に関しては、低い正答率となっている。特に、2つの時刻を比較して、その間の時間を求める問題についての正答率が低くなっている。	時刻や時間は、日常生活と関連付けながら感覚を身につけさせる。 特に、時間については、「あと・分」「あと・時間」などといった意識を持って生活することで、定着を図っていく。
図形	・ 平均正答率は、市の平均よりも2. 1%低い。箱の形の知識についての定着が十分でない。特に、直方体を作るときに必要な面の形と数についての理解が不十分である。	方眼紙を使って作図をしたり、面の形を写し取ったりする学習を通して、直方体の特徴についての理解を深める。
数量関係	・ 平均正答率は、市の平均より7. 2%高い。しかし、□を使った式の問題については正答率が低くなっている。	「□を使った式」においては、文章問題を数多く取り上げ、□を使って式に表す方法について考えさせるとともに、そのよさについても実感させることで、定着を図れるように工夫する。